

第一節 明治三十四年

明治三十四年東京美術學校年報

甲 款

概況

本年度内ニ於テハ久シク缺課シアリタル石彫及牙角彫刻教室ヲ新設シテ彫刻科生徒中志望ノ者ニ學修セシメ又同科生徒ノ解剖學ノ実力ヲ養ハシメ講義ノ外別ニ解剖學擔任ノ教授ヲシテ同科教室ニ於テ生人及製作物ニ就キテ其學理ヲ説明シ應用ノ法ヲ教授セシムルノ道ヲ開キタリ

日本畫科圖案科中圖畫教員志望者ニハ從來其科ノ實技ノミヲ教授シ來リタルガ更ニ象形ノ技ヲ長セシメン為本學年ヨリ第四年級ニ於テ木炭画ヲ課シタリ 蓋シ正確ニ物形ヲ象ルハ圖畫教員トシテ最モ必要ナレバナリ 本校入學者中俊秀ヲ拔擢スルノ目的ヲ以テ本校規則第九條但書ニ依リ中學校卒業生ニ假入學ヲ許シ三四ヶ月間實技ヲ練習セシメタル上試験ヲ施シ合格ノモノハ九月ヨリ豫備之課程ヘ入學ヲ許スコトニ改メタルハ前年度ノコトニシテ同時ニ之ヲ實施シタルガ其結果ハ競争試験ヲ經テ入學シタルモノヨリ優等ニシテ成績甚ダ見ルヘキモノアルハ喜フベキ現象ナリトス

(解説上)
規程

本年度ニ於テ本校規則中彫刻科ノ分科ヲ廢シタリ 從來彫刻科中ニハ木彫塑造石彫牙角彫刻ノ四科ヲ分設シアリタルガ此中塑造科

ハ去ル三十二年ノ増設ニ係リ爾來授業ノ經驗上塿土ヲ以テ造形ノ術ヲ教フルハ進歩最モ早キノミナラズ修學上ニ於テモ便且利ナルヲ以テ塑造ニ由リテ形ヲ造ルノ法ヲ教ヘ而シテ後之ヲ堅材ニ移シ彫刻スルノ術ヲ教授スルコト、シ四分科ノ名稱ヲ廢シテ單ニ彫刻科トシ科中ニ木彫石彫牙角彫刻ノ教室ヲ設ケ生徒ノ志望ニ從ヒ實材彫刻トシテ塑造ノ外之ヲ課スルコトニ改メタリ

本年度ニ於テ設ケタル規程二アリ一ハ教員ノ職責ヲ明カニシ教務ノ統督ヲ圖ル為各科教務分擔内規ヲ定メタリ 一ハ事務ノ整理上必要ナルニ依リ物品取扱規程ヲ定メタリ

設備

本校敷地ハ建造物ノ増設ニ依リ漸次狹隘トナレリ 又校舍ハ本校開設前即チ明治十年教育博物館ヲ置キシトキノ建築ニ係ルヲ以テ技藝ノ教室ニ適セザルノミナラズ年所ヲ經ル既ニ久シキヲ以テ破損或ハ傾倒ノ箇所逐年増加シ改築ノ必要倍々焦眉ノ急ニ迫レリ 速ニ改築ノ計畫アラシコト切ニ希望スル所ナリ

本年度内ニ於テ生徒食堂小使部屋等ノ一棟ヲ改築シ又前年度來企畫中ノ水道全部ノ布設ヲ了レリ

圖書標本ハ本年度内ニ於テ少許ヲ買入レタリト雖未ダ以テ須要ヲ滿タスニ足ラズ

職員

教授助教授書記ハ定員ニ滿タズ 目下ノ費額ニ於テハ之ヲ充タスニ足ラザレバナリ 今之ヲ昨年度末ニ比スルニ教授ニ於テ四名ヲ増シタルハ其不足ヲ補ヒタルニ依リ助教授ニ於テ貳名ヲ減シタルハ休職ヲ命セラレタルモノアルニ基ケリ 而シテ書記ニハ増減ナ

シ 其他囑託講師ニ於テ五名ヲ減シタルハ教授助教ヨリ學科ヲ兼務セシメ從テ之ヲ解囑シタルニ依リ教務雇事務雇ニ於テ二三名ヅ、ヲ減シタルハ教務事務ノ緩急ヲ圖リタルニ依レリ

職員ニシテ外國留學生^(解説2)三人アリ内一人ハ教授一人ハ助教教授一人ハ雇助手ナリ

生徒

生徒ノ操作及學力入學者ノ程度年齢並ニ其健康ノ状態ハ前年ニ比シテ共ニ著シキ差違ヲ見ズ

全躰生徒ノ數ニ付之ヲ前年ニ比スルニ入學者ニ於テ豫備之課程ハ十三人ヲ増シ撰科ハ廿九人ヲ増シ研究科ハ十三人ヲ減セリ 又年度末ノ現員ヲ前年ニ比較スルニ豫備之課程ニ於テ五人ヲ増シ撰科ニ於テ二十人ヲ増セリ 其他ハ僅ニ一二名ノ増減アルノミ

依願退學ハ前年ニ比シ五人ヲ増シ除名ニ處シタルモノハ三人ヲ減シ其他ハ死亡者一人アリ

本年度内卒業シタルモノハ各本科生二十七人各撰科生四人圖畫講習科一人計五十二人ナリ

明治三十五年七月卒業スベキ生徒ヲシテ實地ニ就キテ修學セシムル為三十四年九月末ヨリ十月初旬ニ至ルマデ二週間ヲ以テ教授一人助教一人書記一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都奈良ニ出張ヲ命シタルコト前年ニ同ジ

本校生徒ハ皆自費通學ナルヲ以テ寄宿生ニ關スル事項ノ申報スベキモノナシ

将来施設上必要ト認ムル件

壯年有為ノモノヲシテ西洋美術ノ趨勢ヲ觀察セシメ以テ本邦美術

ノ改善發達ヲ計ルハ美術上ノ急務ナリ 故ニ毎年本校教授助教又ハ雇員中ヨリ将来望ミアルモノ三四名ツ、ヲ拔擢シテ外國留學ヲ命セラレシコト必要ナリ

本校西洋画科ニ於テ西洋繪畫ノ意匠手法ヲ教授セシムル為外國教師壹名ヲ招聘スルノ必要アリ

前年度年報中ニモ記シタルガ如ク本校ハ普通教育系統以外ニアルヲ以テ比較的撰科生ノ多キハ概スベキ現象ナルニ依リ本科生ノ入學者ヲ多カラシムルノ目的ヲ以テ昨年ヨリ假入學ノ規程ヲ設ケタレドモ之唯一時ノ急ヲ救フニ過ギズ且技藝ハ中年ヨリ學習セシムンヨリハ若年ヨリ學習セシムル方進歩早キヲ以テ本校ノ如キ特種ノ學校ニ於テハ今後直ニ高等小學卒業ノモノヲ取リテ學術及技藝ヲ併修セシムル三四學年ノ豫科ヲ設ケルハ最モ必要ノコトナリ

又建築科ハ去ル明治廿二年本校開設ノ際規則中ニ之ヲ置キ当分缺科スル旨ノ條項ヲ備フルノミニテ未ダ施設ノ運ビニ至ラズ既ニ業二十有餘年ノ久シキヲ経タリ 唯現今圖按科中ニ於テ僅ニ建築裝飾ヲ兼務セシムト雖固ヨリ完全ナル能ハズ 殊ニ比年漸ク建築裝飾ノ需要益々多キヲ加フルノ傾向アルニ於テオヤ 宜シク速ニ建築科ヲ新設スベキナリ

又新ニ設置スルノ必要アルハ製版科ナリ 方今社會ニ於ケル製版術ヲ觀察スルニ近年々漸ク進歩スルガ如シト雖而モ未ダ西洋製版術ト拮抗スルニ至ラズ 故ニ美術作品ノ複製ノ如キハ現物ノ體裁ヲ損シ趣味ヲ没シ遺憾少カラザルノミナラズ隨テ文化ノ普及ヲ妨グル亦鮮カラザルヲ以テ本校ニ美術製版科ヲ新設シテ此缺点ヲ補フハ是亦必要ノコトナリトス

圖書教員ハ本校毎年ノ卒業生ニテハ今ヤ大ニ不足ヲ感ゼリ 宜シク圖書講習科ノ規模ヲ擴張シテ圖書教員養成科トナシ教員ノ不足ヲ補フノ途ヲ設クルコト是亦必要ナリ

参考品陳列館及圖書館ヲ新築シ蒐集收藏スル所ノ作品ヲ廣ク公衆ニ示シ若クハ之ニ依リテ研究シタル事項ヲ講話シ又ハ之ヲ出版シテ社會ヲ裨益スルコトヲ計リ奈良研究所ヲ設置シテ美術上ノ研究ニ資スルノ傍ラ名品傑作ヲ聚メ美術史ヲ編纂シテ美術上ニ貢獻スルノミナラズ文學上ノ缺典ヲ補ヒ生徒成績品陳列室ヲ新設シテ本校ノ成績ヲ博ク内外人ニ示ス等ノ必要ナルコトハ本年二月提出シタル目論見書ニ於テ詳細開陳シタル如ク各項孰レモ一日モ早ク之ガ計畫施設ヲ要ス

校舎ノ狹隘ト不適當ナルコトハ是亦嚮ニ提出シタル目論見書ニ於テ開陳シ且前項設備ノ項ニ於テモ述ブル所ノ如ク本校目下ノ急務ニ屬ス

圖書標本ハ他學校ニ比シテ高價ノモノ多ク且廣ク蒐集スルノ要アリ 毎年少許ヲ購入スト雖未ダ不足ヲ免レズ漸次増備ノ必要アルヲ以テ其費用ヲ増加セラレンコト切望スル所ナリ

本校ニハ從來雨天体操場ノ設ケナシ 速ニ新設スルヲ要ス 教授助教授ノ不足ハ教課上缺典トスル所ナリ 然レトモ現今ノ經費ニテハ到底充實セシムルヲ得ザルヲ以テ之ガ費額ヲ増ス必要アリ

學生費ノ不足ナルハ生徒ヲシテ充分ノ修學旅行ヲナサシムル能ハズ 從ヒテ見聞ヲ廣メ良績ヲ擧ゲ難シ 且本校規則研究科規程中ニハ旅行ヲナサシムルノ規程アルモ從來費用ノ足ラザルガ為空文

ニ屬シ遺憾トスル所ナリ 故ニ本費用ヲ増額スル亦必要ナリトス 雜件

前年来研究生ノ実験ニ資スル爲依囑ヲ受ケタル滋賀縣下社寺ノ寶物修繕事業ハ著ニ進捗セシモ本年度内ニ於テハ未ダ竣成ノ運ビニ至ラズ

生徒實驗ノ資ニ供スル爲諸所ノ依囑ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

一 吉田健康胸像 壹軀 前年ヨリ 長崎吉田健康氏銅像建設 委員ヨリ依囑

一 鍛鉄花瓶 壹対同 衆議院依囑

一 劍狀銅標 壹基同 北海道炭鑛鐵道株式會社依囑

一 征清紀念銅標 同 竣工 静岡縣濱松町依囑

一 仙臺昭忠銅標 同 未竣工 仙臺昭忠會依囑

一 故佐久間貞一胸像 壹軀同 日本圖書株式會社依囑

(三十五年) 本年二月廿日子爵東園侍從 勲旨ヲ以テ本校ニ臨マレ各教室ヲ巡視セラレタル上天覽ニ供スル爲生徒成績品ヲ差出スベキ旨御沙汰

アリタルヲ以テ生徒成績品三十七点ヲ差出シタルニ其中ノ作品ニシテ (解說6) 御買上ゲトナリタルモノ三點アリ

解説

1 規定改正

明治三十四年の規定改正は五月に入学試験料を一元から二元へと改め、無試験入学生の入学手数料を五十銭から一元へと改めたことと、次に記す彫刻科分科廃止、「生徒心得」の改正、教務分担内規制定、物品取扱規程制定、モデル取締規定制定等である。